

(別紙1)

管理運営状況 評価シート【令和4年度】

(評価日 令和5年6月28日)

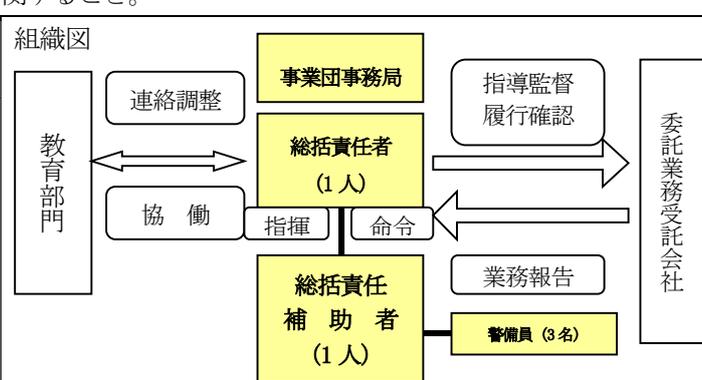
1 施設の概要

施設名	岩手県立県南青少年の家
所在地 電話・FAX HP・電子メール	岩手県胆沢郡金ヶ崎町永沢下館 49-1 電話 0197-44-2124 FAX 0197-44-2126 ホームページ https://iwate-sposhin.jp/kennan/ 電子メール kenritukennan@echna.ne.jp
設置根拠	青少年の家条例
設置目的	(設置：昭和56年3月27日) 次代の担い手である青少年に、恵まれた自然環境のなかで、規律ある共同宿泊生活を体験させ、友情、協同、奉仕等の相互扶助の精神を養い、地域社会の発展に寄与しうる自主的で創造性豊かな青少年の育成を図る。
施設概要	【敷地面積】98,785.21 m ² 【建物面積】4,837.78 m ² 【主な施設】○管理・研修棟 ○体育館 ○宿泊棟 ○キャビン ○付帯施設 ○研修機材等 ○駐車場
施設所管課	岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化財課 (電話 019-629-6171、メールアドレス DB0005@pref.iwate.jp)

2 指定管理者

指定管理者名	公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日(5年間)
連絡先	盛岡市みたけ1丁目10番1号 電話 019-641-1127

3 指定管理者が行う業務等

業務内容(主なもの)	1 施設等の供用に関すること。 2 施設等の維持管理に関すること。 3 施設の利用促進及び指導に関すること。		
職員配置、管理体制	5名 (令和4年4月1日現在) (内訳) 正規職員 1名 地域職員 4名		
利用料金	徴収していない		
開館時間	勤務時間 8時30分～17時15分 ※利用団体がある場合は、24時間	休館日	毎週月曜日(ただし、臨時開所することがある。)、12月28日～1月4日、その他所長が定める臨時の休所日

4 施設の利用状況

(単位：人)

(利用者数、稼働率等)	前期間平均	指定管理期間						備考
		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	期間平均	
第1四半期	8,982	5,758	7,209				6,484	
第2四半期	9,466	4,141	6,852				5,497	
第3四半期	5,782	5,135	4,224				4,679	
第4四半期	3,193	2,691	2,940				2,815	
年間計(実績)	27,423	17,725	21,225				19,475	
年間計(計画)		26,800	26,854	26,908	26,962	27,016		

5 収支の状況

(単位：千円)

区分	前期間平均	指定管理期間						備考
		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	期間平均	
収入	利用料金収入	0	0	0			0	
	指定管理料	34,335	36,801	38,096			37,449	
	自主事業収入	347	515	432			473	
	小計	34,682	37,316	38,528			37,922	
支出	人件費	7,105	10,883	11,318			11,100	
	維持管理費	26,276	26,802	28,382			27,592	
	事業費	0	0	0			0	
	自主事業費	376	457	389			423	
	小計	33,757	38,142	40,089			39,116	
収支差額	33,757	△ 826	△1,561			△1,194		

6 利用者の意見等への対応状況

(1) 利用者意見(満足度等)の把握方法

把握方法	利用団体毎に利用評価票を提出いただいている。 利用者総合アンケートを実施している。	実施主体	(公財)岩手県スポーツ振興事業団
------	--	------	------------------

(2) 利用者からの苦情・要望

受付件数	苦情 0件、要望 15件、その他 0件		
主な苦情、要望等	対応状況		
宿泊棟の各部屋でドライヤーを使用するとブレーカーが落ちるので、使えるように電源容量を増やしてほしい。(3件)	各部屋でドライヤーや掃除機を使用するとブレーカーが落ちやすくなっているため、研修室など別の場所での利用案内を行うとともに、改善に向け県へ要望している。		
宿泊室のドアが閉まる音が大きく響く。	静かに閉めるよう促すとともに、ドアの開閉調整をし改善を図った。		
宿泊棟の部屋の豆電球が明るすぎる。	交換が必要な箇所から暗めの豆電球に変更している。		
キャンドルの集いに使用するブルーシートが古く大量の塵が出た。	破損していないシートに交換するとともに、利用前に確認し利用いただく。		

コロナ対策のベッド表示に色だけではなく文字や記号などを表記して欲しい。	文字を追記し分かりやすく改善を図った。
トイレは全てシャワートイレの設置が望ましい。	予算を見ながら検討する。
食堂に紙ナプキンがあればいいと思う。	食堂と協議のうえ検討する。
古くても大事に使われてきた施設だと思います。家具、棚など剥がれや痛みがないか危険チェックをお願いします。	宿泊棟 1 階談話室のソファの背もたれ（角部分）から少しはみ出していた金属で児童が擦り傷を負ったことから、即日、館内全ソファの安全確認を行い、生地が薄くなっているものはテープで補強するなど対応した。
トイレ内や廊下に手摺りがあると高齢の方や障がい者の方々がもっと利用しやすいと思う。	今後、障がい者の利用が増えるとなれば館内のバリアフリー化が必要と考える。予算上、早急の対応は難しいが、今後の施設管理の参考にさせていただく。
駐車場に白線ラインを引いていただくとありがたい。	白線が薄くなり見えづらくなっている箇所については、計画的に修繕していく。
体育館にも暖房があればもっと良い。	保護者の待機場所としてオリエンテーション室の活用やステージ上に寒さを凌ぐため簡易テントを設置し対応した。
宿泊室のエアコンが整備されていない。	連日の真夏日や熱帯夜のなか利用者には扇風機だけの使用で不便をかけており、エアコン設置については引き続き県に予算要求していく。
体育館にタイマーがあるといい。	高額な機器でもあり当面購入するのは難しいことをお伝えし、ご理解いただいた。
<p>その他利用者からの積極的な評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日よけテントの準備や後片付け、熱中症予防の為の食堂開放など本当に過ごし易かった。ありがとうございます。 ・事前相談から当日まで丁寧、親切に対応いただき感謝します。 ・到着が予定より遅れましたが、大変丁寧に対応していただき有難かったです。 ・子供達とすれ違うたびに声をかけていただき温かさを感じました。 	

7 業務点検・評価（※）

(1) 業務の履行状況

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
管理業務等	1) 公の施設としての公共性を有することを十分に理解し、その趣旨を尊重した管理業務等の実施	県民の施設であることを念頭に、いつでも、誰でも、気軽に、そして公平な利用の確保を図るため、業務内容についての情報公開を適切に行った。また、施設管理部門と教育部門との密接な連携・協働を図るため、所内で十分に協議・協力して管理運営を行った。	B
	2) 県民の平等な利用の確保	できるだけ多くの団体に利用いただけるよう、一般企業等の利用も含め利用形態に対応した受け入れを行った。	

	3) 設置目的を効率的かつ効果的に達成	利用者のニーズを勘案し、年間13回の臨時開所を行った。宿泊団体の無い日の体育館の夜間利用は、年間212回行った。	
施設の利用状況	1) 目標値の達成 管理運営計画書に掲げる年間利用者数 26,854人	年間利用者数 21,225人 対目標値 △ 5,629人	A
	2) 上記目標値に向けた取組みと、増減内容の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者増加に向けた取組みとして未就学児を対象とした活動プログラム「森の体験ごっこ」を充実させ新たに二つのアクティビティを作り、幼稚園・保育園等の利用拡大を図った。また、地域のグラウンド・ゴルフ愛好者へ整備したグラウンド・ゴルフコースをPRし高齢者の利用促進を図った。 ・増減については、昨年度比3,500人増の21,225人となり、計画数値(26,854人)に対して79%という結果となった。新型コロナウイルスの感染再拡大によるスポーツ少年団等の活動控えや子供会のキャンセルが影響した。(キャンセル数は83団体、4,350人) <p>このような中、4月14日には開所から延べ利用者数が170万人を達成し記念セレモニーを行い、新聞各社に掲載いただいた。</p>	
	3) 施設利用促進に係る広報等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校、教育事務所その他団体に要覧・所報の配布を行うとともに、幼稚園、児童館、高校、企業や社会教育担当者などターゲットを絞ったチラシを作成し配布を行った。 ・高校や大学に直接訪問し利用促進活動を図った。 ・マスコミ各社へ主催・自主事業等の開催案内及び取材依頼を行い新聞に掲載いただくなどPRに努めた。 ・リニューアルしたホームページを活用し、利用者に分かり易く、リアルタイムな情報提供に努め利便性の高い内容になるよう工夫した。 ・フェイスブックを効果的に活用した主催事業の案内や終了事業の写真等掲載による広報活動を行った。 	

会計業務の状況	適正な会計業務(収入・支出・契約等)の執行	<ul style="list-style-type: none"> ・事業団会計処理規定に基づき、契約については県会計規則に準じて執行した。 ・事業団会計処理規程に基づき、関係法令等に照らし処理した。また、事業団本部との連携を密にし、関係書類は複数職員で確認するチェック体制を整え処理した。 	B
施設の維持管理状況	1) 施設設備の維持管理等業務の適切な実施	<ul style="list-style-type: none"> ・職員による日常管理に加え、委託業者による施設設備の保守委託等により良好な状態を維持するよう努めた。特に清掃委託業者による館内床の剥離清掃や職員による館内展示物の整理などを行い、施設内の環境を整えた。 処置が必要な箇所については、速やかに職員または業者による補修・修繕を行った。 	B
	2) 公有財産の適切な管理	<ul style="list-style-type: none"> ・日常点検及び安全点検を実施し、異常ある場合はその都度、安全及び利用の可否を判断するなど適切な管理に努め、所内会議において職員間で情報共有を図った。 ・損傷箇所を発見した際には、安全性と機能性を回復するため、速やかに対応することを基本にして、職員で修理できるものは修繕材料を調達し、困難なものは業者に発注し修理した(施設修繕3件、設備・備品等修繕29件)。 ・老朽化等使用不能の備品は廃棄処分等の整理を進めた。 	
	3) 備品について備品台帳との整合性を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・11月に一斉点検を行い、備品台帳と照合したほか、体育用備品については破損等の有無を点検し適切な管理に努めた。 	
記録等の整理・保管	各種帳票書類の適正な整理保管	<ul style="list-style-type: none"> ・事業団規定に基づき、類型・年度毎に保管管理した。 	B

<p>自主事業等の取組み</p>	<p>施設の設置目的に沿った、利用促進に繋がる方策に基づく事業の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自主事業 11 事業を実施し、参加者は延 2,042 人の参加者を得た。感染拡大防止対策の徹底や感染状況の落ち着きもあり、予定された全事業を実施することができた。 ・「サッカーフェスティバル」の年 2 回開催や「ふれあいフェスティバル」の参加者を事前申込制とし、3 年ぶりに開催することができた。 ・利用団体の評価は、「施設・設備」満足度の項目では「満足・良い」が 95.4%、「利用全体の満足度」の項目では「満足・よい」が 99%となっており、前年度と同様に高い満足度を得ることができた。 ・実施にあたっては、細部まで内容を詰めていくことを常例とし、所外で行う事業にあつては現地調査を行うなどきめ細かなプログラムを提供するよう努めた。 ・地域との連携は、子供会等の出前事業への積極対応や、グランドゴルフ場を活用した地域高齢者の利用促進を進めた。 ・ホームページを活用し、リアルタイムで情報提供に努めるとともに、利用者の問い合わせ等を想定した利便性の高い内容になるよう工夫して情報発信に努めた。 	<p>A</p>
<p>(施設所管課評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果のあった点 ・改善を要する点 	<ul style="list-style-type: none"> ・成果のあった点 未就学児対象の活動プログラムの充実や、令和 3 年度に整備したグラウンド・ゴルフコースの PR により、学生以外の利用促進へとつなげた。(昨年度比:3,500 人増) 自主事業については、感染拡大防止対策の徹底等により、予定した 11 事業すべてを実施することができ、参加者から「施設・整備」「利用全体の満足度」ともに高い評価を得た。 ・改善を要する点 施設全体の老朽化が進んでいる状況からも、引き続き安全点検の徹底に努めてほしい。 	<p>B</p>	

(2) 運営体制等

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
職員の配置体制	各業務に適した職員及び必要な有資格者の適正な配置	・管理計画書のとおり防火管理者等の適正配置を行っている。	B
苦情、要望対応体制	利用に関する各種問い合わせや要望及びトラブル等の適切な対応	・寄せられた提言に対しては、利用者等の立場で適切かつ迅速に対応し、その結果を最大限取り入れた業務改善を継続することにより、利用者等の信頼と満足度の向上を図るよう努めた。	B

		・利用評価票における意見・要望等は職員間で共有を図り速やかに改善するよう対応に努めた。	
危機管理体制（事故、緊急時の対応）	災害時・緊急時の対応や、防犯・防災対策として、マニュアルの作成や訓練の実施	・事業団危機管理対応要綱及び危機管理要領に沿って作成した「非常時対応マニュアル」を随時補正し、有事の対応に万全を期した。 ・自衛消防訓練及び消火訓練など年3回実施した。また、救命救急講習を行い利用者の体調不良、ケガの応急処置方法やAED操作方法の訓練を実施した。	B
コンプライアンスの取り組み、個人情報の取扱い	基本協定に基づく秘密の保持、個人情報保護及び法令遵守の確保 個人情報に関する書類の適切な保管管理	・年度初めに「コンプライアンスマニュアル」の再確認をするとともに、毎月職員がコンプライアンスに関する自己取組みを発表し、意識の高揚に努めた。 ・コンプライアンスマニュアルに従い、年度初めに「個人情報保護」の職員研修会を実施し、個人情報が記載された書類等はキャビネットで管理するとともに、廃棄する場合は、シュレッダー破碎等により外部に流出しないよう管理を行った。	B
県、関係機関等との連携体制	基本協定に基づく関係機関等との協力連携及び良好な関係の維持	・協定書に基づく諸報告等については、期限を遵守するとともに、事業団本部と連携を密にし、適正に処理を行った。 ・県による会計実地検査においても特に問題はなく、事業団内部調査における指導事項についても職員全体で共有・改善を行った。	B
(施設所管課評価) ・成果のあった点 ・改善を要する点	<ul style="list-style-type: none"> ・成果のあった点 概ね適正に運営されていると認められる。 ・改善を要する点 特になし。 		B

(3) サービスの質

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
サービス向上の取組み	サービス向上のための研修等の実施	・県及び事業団が主催する研修会に積極的に参加した。 ・接遇研修を受講後、所員に伝達講習を行い、サービス向上を徹底した。	B
利用者サービス	利用者サービス向上に向けた方策に基づく、適切な利用者サービスの実施 1) 利用者の要望に応じた施設開所 2) 利用者の意見を反映させた青少年育成事業の実施 3) 青少年育成の場として適正な施設	・利用者のニーズに合わせて、休所日である月曜日を13回、臨時開所するとともに、宿泊団体の利用がないときの夜間の体育館を212回開放するなど、利用者の便宜を図った。	B

	<p>環境及び設備機能の維持(衛生環境保持、安全点検、修繕等)</p> <p>4) 障がい者等特別な配慮が必要な利用者に対する柔軟な対応、施設設備の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の意見を反映した事業内容を検討し、開所時間や開所日の弾力的な運用等を実施した。 ・適正な施設環境及び設備機能の維持のため、必要に応じ専門業者へ維持保全に関する業務委託を行った。また、定期的な安全点検の実施、速やかな修繕対応に努めた。 ・主催事業に障がい者の方に参加いただいたことで、身障者トイレ等の課題を把握し、改善について県へ予算要求を行った。 	
利用者アンケート等	<p>1) 利用者アンケートや意見箱の設置による利用者ニーズの把握</p> <p>2) アンケート結果に基づく業務改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者には団体利用の都度、利用評価票の提出をお願いし、多様化する利用者ニーズの把握を行った。 ・事業団共通アンケートの集計、分析を行い、「施設」・「職員」・「満足度」の評価結果を職員で共有するとともにホームページに掲載するなど、施設運営や事業計画に反映させ、サービスの向上を図った。 	B
(施設所管課評価) ・成果のあった点 ・改善を要する点	<ul style="list-style-type: none"> ・成果のあった点 休所日の臨時開所や体育館の夜間開放を行うなど、利用者のニーズに合わせた運営を行っているほか、利用者アンケートの実施結果を職員で共有し、施設運営に活かしている。 ・改善を要する点 特になし。 		B

(4) サービス提供の安定性、継続性

項目	事業計画、県が求める水準	実績 (指定管理者の自己評価)	評価指標
事業収支	管理運営計画における収支の積算に対する適正な収支実績	<ul style="list-style-type: none"> ・会計諸帳票は、公益法人会計基準に定められたとおり作成しており、運営計画との整合性が図られている。 ・収支実績は、限られた予算の中で計画的に予算執行を行い施設運営ができた。 	B

指定管理者の経営状況	経営基盤の安定及び計画に沿った管理能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公益法人としての活動について、毎年、公益認定委員会の評価を受けている。 ・ 当事業団は、昭和 60 年の設立以来、借入金及び貸付金等はない。 ・ 業務を適正に成し得るだけの有資格者、経験者を有しているほか、職員の資質向上にも努めており、十分な管理能力を保持していると考ええる。 ・ 経費縮減等の努力を継続して行っている。 	B
(施設所管課評価) ・ 成果のあった点 ・ 改善を要する点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成果のあった点 概ね適正に運営されていると認められる。 ・ 改善を要する点 特になし。 		B

※ (注1) 県記載欄：「事業計画・県が求める水準」、「評価指標」「施設所管課評価」
指定管理者記載欄：「実績（自己評価）」

(注2) 評価指標

- A：協定書、提案書等の内容について高レベルで実施され、また、計画を上回る実績（効果）があり、優れた管理がなされている。
- B：概ね協定書、提案書等の内容どおり実施され、計画どおりの実績（効果）があり、適切な管理が行われている。
- C：一部、改善・工夫を要する事項が見られたが、改善済み、または改善される見込みである。
- D：協定書等の内容に対し、不適切な事項が認められ、改善を要する。

8 指定開始年度から評価年度までの総合評価

(1) 指定管理者の自己評価

<p>① 成果があった取組み、積極的に取り組んだ事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の幼稚園と連携し開発した活動プログラム「森の探検ごっこ」を更に「森の生きものさがし」、「森の宝ものさがし」とアクティビティを増やし、幼児の自然体験の幅を広げ未就学児の利用促進を図った。 ・ 開所 40 周年記念事業の一つとして令和 3 年度にグランドゴルフ常設コースの使用を開始し、令和 4 年度は施設から事業団理事長杯グラウンド・ゴルフ大会へ初参加することを契機とし、金ヶ崎町グラウンド・ゴルフ協会主催の交流会を年 2 回開催し高齢者の利用促進が図れた。 ・ 大人を対象とした事業を近隣の市町広報誌に掲載を依頼し、広く地域住民の方に周知を図り参加者の増に繋ぐことができた。 ・ 新型コロナウイルス感染症対策を取り、「ふれあいフェスティバル」や「サッカーフェスティバル」の年 2 回開催など、3 年ぶりに計画していた全事業を実施することができた。 ・ 年間 13 回の臨時開所により、利用者の利便性を図った。 ・ 夜間の体育館を開放し、近隣のスポーツチームやスポーツ少年団の活動場所を提供するなど、利用回数は 212 回であった。 ・ 冬季の積雪は職員全員で除雪作業を行ったほか、屋根からの落雪による窓ガラスの破損防止のためコンパネ設置など、施設の保全に努めた。 ・ 野球場や多目的グラウンドのグラウンド整地のため備品を整備し、利用者が快適に使用できるように、また職員の負担軽減を図った。 ・ 館内床面の剥離清掃を行い、長年の汚れを取り除き施設内の環境美化に取り組んだ。 ・ 花壇や玄関脇プランターに夏花を植え、景観環境にも配慮して利用団体を迎えた。 ・ 閑散期を利用し、宿泊棟全室のベッドマットを起こし、全職員で清掃した。 ・ 委託業者と「給食会議」を 2 回開催し、利用者ニーズに対応した食事の提供等により好評を得た。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 閑散期は、地域の児童クラブ、放課後子供教室や高校を直接訪問し施設や事業のPRに努めた。
<p>② 現在、苦慮している事項、今後、改善・工夫したい事項、積極的に取り組みたい事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の老朽化による破損が多発しており、予算的な制約もあり職員が応急対応することも多い。職員の負担も大きく、原因が解消されない限り根本的な解決とはならない。築42年を迎える施設群のため、設備の不具合が複数同時に発生しており、優先順位の判断も難しくなっている。 ・ 新たにインスタグラムを活用し、当所の施設の紹介、年間行事と提供プログラムの紹介等、魅力ある事業の情報の提供を行い、利用者が気軽に参加できる場の提供を実施していく。 ・ 隣接するスケート場の閉鎖に伴いスケートを取り入れた事業展開が実施できないことから、スケートに代わる冬のプログラム開発を進めるとともに、閑散期の利用促進に努める。 ・ 宿泊利用者がいない夜間の体育館の開放などに今後も努める。
<p>③ 県に対する要望、意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の営繕は、小修繕対応だけでは維持が難しくなっている。公共建築物定期点検においても「D：全体的に顕著な劣化」と判定されており、利用者の安全・安心の確保の観点からも大規模改修が望まれる。(本館の外壁・内装改修、体育館屋根、第一炊事場屋根塗装、敷地フェンス、境界柵ほか) ・ 建物関係では、体育館屋根の雨漏りが全面的に発生している。施設は「大規模災害時における指定避難所としての使用に関する覚書」を金ヶ崎町と岩手県において取り交しており、避難所として機能するためにも早急な改修が望まれる。 ・ 第一器具庫下屋が腐食による倒壊の危険があるため、職員で単管パイプを増やし補強しているが早急の修繕が必要である。 ・ 施設内の冷房設備は食堂・医務室のみのため、近年の酷暑により利用者及び職員の健康管理上大きな不安を抱えている。体調不良者の休養や執務の効率化のため、宿泊棟和室、当直室及び事務室等のエアコン設置をお願いしたい。 ・ 令和2年12月の豪雪により大型テントが倒壊したため、集会用簡易組立式テントを整備していただいたが、強風時にはテントを取り外す必要があり、職員体制や天候急変によってはテント脱着が困難である。天候急変でも利用者が安全に活動できる場所を確保する必要があることから、以前と同程度(鉄骨、独立基礎有)のテント設置が望まれる。 ・ 備品については、公用車(バン)が使用に耐えがたい状態となって来ているため計画的な更新をお願いしたい。 ・ 宿泊棟や浴室の電力容量(20A)の不足が原因で、朝の一斉清掃やドライヤー使用時に電力遮断があり利用者にとって不便を強いている。また、エアコンやWi-Fi環境の整備も利用者から多くの要望があることから、これらを整備することで、各種学校や企業の利用促進に繋げたい。 ・ キャンプ場及び多目的グラウンドの水はけが悪く降雨後数日間は野営希望団体のテント設営の場所に苦慮している。グラウンドコンディションが悪く利用団体に不便をかけている状況にあるため、暗渠排水等改修が望まれる。

(2) 県による評価等

<p>① 指定管理者の運営状況について</p> <p>施設の臨時開所や、利用者層の拡大につながる事業の実施及び広報活動を適切に行っており、施設利用者からも一定の評価を得ている。</p>
<p>② 県の対応状況について(自己評価)</p> <p>昨年度同様に、毎月の定期報告により施設の管理状況・利用状況を把握するとともに、施設・設備の老朽化が進んでいることから、修繕状況の把握に努めた。年次計画による予算の確保等、引き続き指定管理者と連携して適切な施設整備に努めたい。</p>
<p>③ 次期指定管理者選定時における検討課題等</p> <p>特になし。</p>

9 改善状況等

<p>改善を要すると評価された項目(C、D評価の項目について)</p>
<p>該当なし</p>

改善状況

(指定管理者から県への報告年月日：令和 年 月 日)

改善状況の確認

(確認年月日 令和 年 月 日)